

# 農協といえば、

野菜の取引だったり



子牛のせり市や  
苗などの販売だったり



## というイメージですが、

「それだけ」ではありません。曾於市に本所がある農協《JAそお鹿児島》は、「これからの農業」を考え、そして進み始めています。農家じゃないと知らなかった、農家でも知らないかもしれない「農協の仕事」をごく一部ですが、インタビューを通してお伝えします。

**特集** つながる農協

## 組合長インタビュー

### J Aそお鹿児島のトップ

日本全国どの地域にも必ずある農業協同組合、略して農協。曾於市が管内である「JAそお鹿児島」は曾於郡内8町のうち、有明町を除く7町で合併してきた。今年は25年目という節目。改めて「農協の在り方」について、代表理事組合長の本倉敬一さんにお話を伺った。

―そもそも農協とはどういったものなのでしょう？

元々は構成員が出し合ったお金で、肥料をたくさん買って単価を押さえて、農機具などを購入したりする、農家同士が支え合う「組合」です。農家をより支えていくために「低金利でお金を融資しよう」「安心で安全な苗を提

供しよう」など、「できること」を増やしていきました。その結果、今では大きくわけて5つの事業があります。農家の技術指導などをする《指導事

業》、市場などへの出荷や販売をする《販売事業》、肥料や農業資材などを取り扱う《購買事業》、貯金や融資を取り扱う《信用事業》、生命共済など《共済事業》です。

―かなり幅広いですね。

今は人口が減っていて、農家も減ってきています。その中で「農協がなくてはならない」と思ってもらわなければならない。そのためは、色んな面でサポートができるようにしないとですね。

―農家も減っていくとなると、これからの農業も変わっていきそうですね。

人が減っても農地は減らないので、大型農家も増えてくると思います。農業は地域にとってもなくてはならないもの。そのためには所得を増やして、「農業やろうか」という人を少しでも増やしていかないとい

―地域全体で考えていかなないとですね。

行政ともビジョンを合わせていかなないとですね。ただ、それだけでなく、なにより農家の声をちゃんと聞いていく。

農業はこれからガラッと変わっていくと思います。農家がどう思っているのか、現場の意見を吸い上げて、それを反映させていくことが、今まで以上に重要になってきます。

―「農家の声を聞く」ということですね。

うちでは20年前から「TAF」という組織があつて、直接農家に向いてお話を相談を聞くようにしています。待つていだけでは情報は入ってこない。そのノウハウがこれからもっと活かしてくる。地域の特性をつかんで、「なにを重要視していくか」を改めて考える中でも、大事なことだと考えています。



「現場の声」がより重要になる時代へ。

「TAF」とは？  
次ページへ！



そお太くん

今回お話を聞いた  
右から市吉さん、有馬さん、  
増田さん、小園さん。



農家と農協をつなぐ  
「信頼関係」づくり。

## JAそお鹿児島の礎 TAFについて

JAそお鹿児島で平成10年にできた農家経営支援センター「トータルアドバイザーふれあい」通称TAF。自ら農家に向いて、様々な意見や要望を持ち帰り、農協内で共有する。JAそお鹿児島はこれを全国で最初に始めた。全国の各農協にも「TAC」という似た組織が出てきたが、今なお全国から視察がくる存在だ。

TAFの事務所は大隅町にあるJAそお鹿児島本所2階にあるが、普段、席でメンバーの姿をみることはなかなかない。

「TAFができた当時は、席にいと組合長がやってきて『なんている！外に出てこい』と言われまして」と、20年前もTAFの一員だった増田さんが笑いながら話してくれた。

取材当日、お話を聞かせてくれたのはセンター長であり松山町担当である有馬さん、財部町担当で

ある小園さん、大隅町担当である市吉さん、末吉町担当である増田さんの4名。このようにTAFメンバーには、それぞれ担当地区があり、輝北担当、志布志と大崎担当の計6名が在籍する。

「担当は地元出身者です。地元なので土地勘もあるし、顔見知りも多い。信頼関係を築く上で地元が一緒というのは良いことだと思います」と有馬センター長。

「現場の声を聞く」ためには、信頼でつながっていくことがなにより大事だという。実際、今では「TAFにだったら相談できる」という農家もいるほどで、この20年で培ってきた「信頼関係」がうかがえる。では、どうやってその関係を築いてきたのか。それは「何でも聞く」だ。

「青色申告の補助や会計など経営指導がメインなのですが、どんな質問や相談がきても『担当じゃないのでわからないです』とは言わないですね。融資のことをきかれたらその担当とつなぎますし、

わからないことは電話で担当に聞いてその場で答えることもありま  
す。それがTAFの仕事です」と  
市吉さん。他のメンバーも大き  
うなづいていた。

出てきた要望や質問は、その場  
や担当だけに留めず、毎月一度あ  
る「活動報告会」で共有されると  
いう。報告会には、組合長をはじ  
め、農協内の各部長、経済連や共  
済連までもが集まり、対応状況や  
今後の対応策が話合われる。とあ  
る月があがってきた意見要望を少  
しみせてもらったが、内容は「ロー  
ンの借り入れ」から「後継ぎ継承」、  
「販路づくり」、「牛の移動中の事  
故報告」など本当に様々だ。

「農家と農協の間をつなぐのが  
TAFです。そして、内部の風通  
しもよくするために、横ぐしを指  
す役割もあります。そのため、T  
AFはどの部門にも所属せず、常  
務直轄の部署になっているんで  
す」と有馬センター長。「TAF  
はノルマもなく、採算を度外視し  
ているから、こうやって動ける。



利益や費用対効果だけを考えてい  
たらできないことです。それだけ、  
『声を聞くこと』はうちの農協に  
とって重要なんです」と話す。20  
年前に立ち上げたときも、当時の  
組合長が自ら動き、この役割こそ  
が大事だと考えたからこそ、今に  
続いている。

「だからこそ、背中の口ゴは誇  
りでもありますが、責任も感じま  
す。今まで先輩たちがつないでき  
た《信頼》を無駄にするようなこ  
とはできないです」と市吉さん。

TAFのメンバーは全員が農協  
歴20年以上のベテラン。新人はも  
ちろん、10年以下の中堅も配属さ  
れたことがないという。様々な部  
署を経験したからこそ、「何でも  
聞く」ことができるのだろう。

こう話してくると、TAFは「農  
家の話を聞いていること」だけが仕  
事かと思われるかもしれないが、  
「それだけ」ではない。

TAFは農家経営支援センター  
という名前の通り、農家の青色申  
告や担い手支援、法人化や大規模

化に向けた会計などのサポートも  
している。より専門的な知識を学  
ぶため、メンバーのうち3人は税  
理士事務所へ6カ月出向し、経営  
コンサルタントとして研修を受け  
ているという。

実際に4年前に法人化の準備を  
お願いし、現在も会計をTAFに  
お願いしているという(株)領家の領  
家さんは「TAFとはずっと関係  
があったからすんなり法人化でき  
ました。今も、税理士さんともT  
AFが話してこちらに伝えてくれ  
るので助かります」と話してくれ  
た。

担当である小園さんは「少しで  
も役に立てるように日々勉強で  
す。でも、経営や会計に関するこ  
と以外で、例えば野菜の育て方な  
どは**営農指導員**も各地区にいるの  
で、そちらに聞くこともできる。  
農協全体で連携をとっているから  
こそ、できるんだと思います」と  
笑顔で話してくれた。

「営農指導員」  
とは？  
次ページへ！



そお太くん

専門的に、だけど  
「広い視野」で  
その分野を考える。



## JAそお鹿児島の技術者 営農指導員について

「作物がうまく育たない…」「牛がエサを食べない…」といったような問題がおきたとき、解決には経験と専門的な知識が必要になる。そんなときに相談できる相手、それが「営農指導員」だ。農産部門にも畜産部門にもそれぞれいるのだが、今回は畜産部肉牛課（肥育牛）の時見さんに、仕事内容を伺った。

— 営農指導員とはどんな仕事ですか？

農家さんやセンターの農場を見てまわり、「もっとこうした方がいいのでは」とアドバイスをしたり、相談を聞くなどですね。JAそお鹿児島全体で、農産部門に26人、畜産部門に28人の営農指導員がいます。お茶担当や野菜担当、生産牛担当に肥育牛担当、養豚担当といったように専門に分かれて、各地区を担当するような形になっていますね。

私は末吉町の肥育牛担当をしています。

— 曾於市は畜産も盛んなので、農家さんも多いイメージです。

そうですね。頭数でいえば、鹿児島県内でも多い方ですね。皆さん、何十年も肥育農家をされている方ばかりなので、アドバイスも簡単にはできない。信頼関係があつて、やつとできることですよね。私自身、教えてもらうことも多いので、これからもつとお返ししていけたらと思いますね。

— 肥育牛は枝肉になるところまで、みていくのでしょうか？

はい、枝肉の販売への立ち合いです。販売のときに農家さんは立ち会えないので、あまり安く買われないように、格付けだったり、値段が決まるときに違うと思ったら、伝えるようにしています。

— 牛の知識だけでなく、肉についても詳しくならないとですね。

肥育牛は肉になったのを見ないと、改善点だったり結果がみえないですから。枝肉をみれば、「ここでエサを減らしたけど、もっと食べさせた方がよかったな」というような反省がみえてくるんです。

— それを農家さんに伝える「つなぎ役」でもあるんですね。

20カ月間大切に育てた牛の答えが枝肉にでるので、それは伝えないとですね。今後は、経営面でのフォローもしっかり考えないとです。農家あつての農協なので、手助けになるようにこれからもやっていきたいですね。

## 聞いてみた！ 技術員ってどんな存在？



農協さんの技術員は、私たち市の技術員が入り込めない部分まで関わり、農家さんに寄り添う大きな存在です。時見さんとは、日ごろから良い枝肉が出荷された際は連絡をもらい、その情報を共有することで、より良い牛を曾於市内に母牛として残すことにつながっています。今後も曾於市の牛を世界に売り込むため、より一層連携していきましょう！

曾於市 畜産課 技術員 八木

# 曾於市の補助事業

J A そお鹿児島と曾於市役所。

曾於市の「農業」を支えるため、お互いできることをそれぞれ、時には一緒に、行っています。



## 新規就農者の支援

就農後2年以内の方を対象に実態に応じて月額5万円から15万円の補助金を2年間交付。  
《対象》農林業以外の仕事に従事していた者または就学していた者で、新たに就農した者に該当し、かつ、市内に居住し市内に施設を所有する者。年齢は申請時に18歳以上55歳以下の者。

《担当課》曾於市役所 農林振興課  
☎ 0986-76-8808

## 荒廃農地等利活用促進交付金

荒れた田畑を引き受けて発生防止活動や再生利用活動等を行い、作物生産を再開する農業者を総合的に支援。市の事前調査が必要。交付金額は条件による。

《対象》賃借等により農地を5年以上耕作する農業者。

《対象農地》農振農用地区域内で「利用状況調査の2号遊休農地」または農振農用地区域内で「利用状況調査の1号遊休農地」。

《担当課》曾於市役所 農林振興課  
☎ 0986-76-8808

## 畜産振興協議会（市とJAが1/2出資）での導入保留事業

曾於市内に品質の高い牛を残し、レベル向上のため、優秀牛以上の牛の導入または保留に対して、補助金を交付する制度があります。

### 肉用牛（1農家年間5頭まで）

市内産郡展示最優秀牛	1頭につき	100,000円
市外産郡展示最優秀牛	1頭につき	50,000円
市内産郡展示優秀牛	1頭につき	50,000円
市外産郡展示優秀牛	1頭につき	30,000円

### 肥育牛（1農家年間10頭まで）

導入牛（市内産）	1頭につき	40,000円以内 （導入価格の10%）
自家保留牛	1頭につき	25,000円以内 （自家保留価格の5%）

《担当課》曾於市役所 畜産課 ☎ 0986-76-8809

※各補助事業については、それぞれ事業ごとに条件などがありますので、詳しいことはお問い合わせください。